

さて今回は「食育と ESD」についてお話ししたいと思います。保育園での食育というと何が思い浮かぶでしょうか？「無農薬の玄米やお野菜」、「無添加の調味料」、「和食の献立」、「磁器や木製の食器」などでしょうか？親子ふれあい運動会では給食の先生が食品自給率をテーマに食育クイズをしてくれたことは、まだ記憶に新しいところです。食育には ESD の要素がたくさん含まれているのですが、今回はその中の「農薬」についてお話ししたいと思います。

農薬と E S D

最近は無農薬や有機、オーガニックなどの言葉をよく耳にするようになりました。そもそもなぜ農薬を使う農業が盛んになったのでしょうか？世界大百科事典では農薬を「農作物を病害虫、雑草などの有害生物から守り、農業における生産性を高めるために用いられる薬剤を農薬という。」と記しています。農薬は雑草などを枯らしたり、農作物の成長を促す薬剤ということです。農薬は使うことで農業を楽にしたり、生産性を上げるという利便性と、農薬による人体への影響や環境汚染という負の側面があります。土壤汚染はやがて、水質汚染や海洋汚染へとなり、生態系を壊して生物多様性が維持できなくなり、自然の循環の中にいる私達が生活しにくくなってしまうのです。また有機野菜は安心というだけでなく、味が濃くて美味しいものが多いため味覚が養われるのです。

選ぶ側の役割



農薬を使うことで農業が楽になり、経費を少なくすることで販売価格を安くすることができます。農薬に頼らない農法で作られた農作物は、手間がかかり生産量も少なくなるので価格は慣行栽培に比べると高くなります。いま世界の有名な投資家の中には、持続可能でない企業からの資金を撤退し、持続可能な取り組みをする企業にだけ投資をするという人達がいるそうです。個人利益の追求から、個人と社会の両方の利益を求める時代に変わってきたのではないでしょうか？見出しのタイトルの横に SDGs の 17 の目標の内 5 つの目標があります。3 (すべての人に健康と福祉を)、6 (安全な水とトイレを世界中に)、12 (つくる責任つかう責任)、14 (海の豊かさをまもろう)、15 (陸の豊かさも守ろう) これらは私達消費者が有機栽培の農作物を選択することで貢献できる目標です。

農薬はぜったいにダメなの？



国連 WFP によると全世界で 8 億 1,500 万人（世界人口の 9 人に 1 人）が飢餓に苦しんでいるそうです。農薬の正しい活用で救われる命があるかも知れません。世界がかかえる問題はこの様に矛盾するような事柄がたくさんあります。世界が直面する難しい問題に向き合い、解決できる資質と能力が、持続可能な社会の担い手には必要なのでしょう。